

♪ 月わが家のアイドル ♪



佐備 勢 綾寧ちゃん (4カ月)
笑顔とおしゃべりに癒されています。
元気に育ってね



寿町 三嶋 結月ちゃん (0カ月)
一翔ちゃん (2歳)
パパとママの宝物
幸せをありがとう♡



富田林町 入船 真帆ちゃん (1カ月)
元気にすくすく育ってね。

みんなの広場

宛先

5 8 4 - 8 5 1 1
住所・氏名(ふりがな)・電話番号
富田林市役所
情報公開課広報係
常盤町1番1号

わが家のアイドル (対象年齢は4歳未満、兄弟・姉妹と一緒に写っている写真でも可)は、写真の裏に、名前(ふりがな)と撮影時の年齢(月齢)を記入し、メッセージ(20字程度)を添えて、封書で左記の宛先まで応募してください。

なお、今応募された場合、掲載は約2カ月後になります。

100歳 おめでとうございます!



1月15日、100歳の誕生日を迎えられた石井 マサエさんを訪問しました。コロッケやお寿司が大好きで、喜んで食べられるそうです。

短歌

武都紀 若松 寿子選

秀歌 Ⅱ
金剛山をのみ込むがごと立ち上がる入道雲の
猛々しさよ 寺池台 村田 隆
△選評V毎日見て居られる金剛山の上に大きな入道雲が被さるように浮かんでいるのを「のみ込むがごと立ち上がる」とユニークな表現をされ読み手にも迫力のあるお歌に。

稲架立ては年々辛くなるはずが踏ん張る兄は
太陽を食む 山手町 笹原 秀計
シベリヤに命果てたる弟よ念願のさかな供う
命日 横山 幸左 智恵子
それぞれの想ひの中のひととせを受け止めて
鳴る除夜の鐘の音 津々山台 下村 英子
自分史で「未来を生きる」タイトルにペン取りて又過去ばかり追う 喜志町 澤田 悦子
生垣の紅き山茶花咲きて散り散りすぎてごめん 花びら沁みる 梅の里 有岡 和子
冬雲を大きく裂きて降り注ぐ日の恵みあり幸をもたらず 緑ヶ丘町 千葉 清子
古民家に町家カフェの飾りつけほのぼのとし 選者 詠
て 本町通り

※3月号は「俳句」を掲載します(なお、応募は1月31日で締め切りました)。

川柳・短歌・俳句は、それぞれ別のがきて応募してください(1人各5点まで)。市内在住の人で未発表のものに限ります。作品の漢字や氏名には必ずフリガナをつけてください。
4月号の「川柳(宿題「開く」)は2月28日(土)、5月号の「短歌」は3月31日(火)、6月号の「俳句」は4月30日(木)までに応募(いずれも必着)してください。
宛先は上記をご覧ください。

げんき!NPO

NPOとは営利を目的とせず社会活動をする組織です



元気なまちづくりモデル事業報告会を開催します

現在、少子高齢化や価値観の多様化などによって社会状況が変化しています。地域においては、町会（自治会）の次世代の担い手がない、一人暮らしの高齢者が増えている、誰も住まなくなった空き家が増え不安を感じる、近所に住んでいる人とあまり顔を会わせる機会がないなど、地域活力の弱体化が表面化してきています。

本市では、これら課題の解決や地域活性化を促すため、一つの町会（自治会）だけではなく複数の町会（自治会）などが集まることで、より広域の地域住民が連携し、自主的に課題解決や地域活性化に取り組む事業を支援する「元気なまちづくりモデル事業補助金制度」を24年度に創設しました。

その後、24～26年度の3カ年にわたり「まちの安心・安全づくり」「異世代間交流」「地域の魅力再発見」

を目的とした3つのモデル事業に対し同制度を利用して補助金を交付してきました。

各モデル事業においては、住民連携のために試行錯誤を繰り返し、地道な努力を続けられ、目標に向けて取り組まれてきました。同事業を通じて得られた実績や効果、経験などは、同事業を実施した地域のみならず、他の地域においても参考にすることができる本市の資産であるとともに、市民の皆さんの資産でもあると考えています。そこで、同事業を実施した地域の団体による体験談や苦労話なども報告していただく「元気なまちづくりモデル事業報告会」を「第10回市民活動わくわく広場 in とんだばやし（ひろとん）」（関連記事7ページ）にて開催します。

住民一人一人が地域のために、次世代のために何かできることはないかを考える機会になるかと思いません。ぜひ、ご参加ください。

元気なまちづくりモデル事業報告会

とき 2月15日(日)、午後2時30分～3時30分

ところ エコール・ロゼ4階ロゼサロン

参加費 無料（当日、直接会場へ）

問い合わせ 市民協働課（内線469）

市より軽自動車が無償供与されています。同町の大部分は、坂を登った先にある高台に位置しており、買い物などをするためには坂を登ったり下りたりしなければなりません。そこで、高齢者などを病院やスーパーなど目的の地まで送り、電話がかかってくれば送った場所まで、迎えに行く移動支援を実施しています。他にも、雨樋の清掃作業や野菜を販売する朝市の開催など、高齢者が孤独にならないように心掛けていくそうです。



梅田さん、活動のきっかけを伺うと、自治会長に就任し、65歳以上の人が同町内で40軒近く住んでいることを知り、高台にあるこの地域では、高齢者が住めなくなってしまうと思ったからとのこと。そこで、プロジェクトチームを立ち上げ、アンケートを実施し、現状やニーズなどを把握したそうです。また、梅田さんと現在のほつとらいふ副代表の播戸 嘉明さん、浅井博之さんは寝屋川市まで先進地視察に行かれたこともあったそうです。その後、26年6月にほつとらいふが設立されました。利用者から「今までより安心して暮らせるようになった」「家に引きこもりがちだったのが解消された」などの声を聞くと、まさに「らいいふ」が変化してきたと梅田さんは感じるそうです。また、梅田さんは、世代に関係なく、みんなで助け合い、笑顔でいつまでも安心して生活できれば「住み慣れたこの町で暮らしていく」ということにつながっていくのではないかと語られました。

これから、梅田さんたちのご活躍を期待しています。

わがまちこのびと

住み慣れたこの町で暮らしていく！

不動ヶ丘町

梅田 寛章さん

今回は、不動ヶ丘町で、高齢者などの生活支援をしている「ほつとらいふ」代表の梅田 寛章さんを紹介します。

ほつとらいふの支援事業の内容は、大きく3つあり、「1日日常生活困りごと支援」「憩いの場支援」「IT支援」となっています。

雨が降る同町の住宅内に軽自動車到着しました。これは、ほつとらいふが実施する日常生活困りごと支援の一環である移動支援の車で、本市の

